取組事例1 「ある日突然」に備えて　市町村教育委員会（旭川市）

〔受入れ体制の整備のポイント〕

■　帰国・外国人の児童生徒や保護者への就学に係る情報提供の充実

■　受入れ校が充実した支援及び指導を行うための環境整備

1　編入学に係る情報提供の充実

・７か国語の「就学ガイド」（文部科学省）を旭川市役所市民課及び各支所に設置し、編入学を希望する帰国・外国人の児童生徒や保護者へ情報提供を行っています。

・旭川市教育委員会学務課の窓口では、「就学ガイドブック」（文部科学省）に加え、「就学希望届」、「帰国・外国人児童生徒編入時調査票」を備え付け、就学相談に対応できる環境を整えています。

【教育委員会が情報提供している資料】

2　児童生徒・保護者と受入れ校をつなぐ支援の充実

・児童生徒・保護者に対しては、住民登録に関わる事務手続き終了後に就学相談を行い、日本語能力や、これまでの就学状況、受入れ校における必要な支援内容等について聴き取りを行います。また、必要に応じて教育委員会職員が受入れ校との面談に立ち会い、就学時期や支援内容、学用品等について確認を行っています。

・受入れ校に対しては、就学相談の情報を提供し、受入れ校における必要な支援や指導体制、教材等について助言を行っています。

・児童生徒の就学後についても、保護者や受入れ校からの相談に対応できる体制を整え、継続的な支援を行っています。

・ボランティアを募集し、関係機関の協力の下、必要とする学校に配置しています。

取組事例2 初期指導におけるＩＣＴの活用　学校（網走市）

〔ICTを活用した初期指導のポイント〕

■　「マルチメディアデイジー教科書」の活用による習熟度に合わせた指導

■　携帯型通訳デバイス「POCKETALK」の活用による円滑なコミュニケーション

1　「マルチメディアデイジー教科書」の活用

・日本語指導が必要な児童生徒が、教科書に書かれている内容を理解するために、パソコンやタブレット等の端末で学習する音声教材である「マルチメディアデイジー教科書」を活用しています。

・「マルチメディアデイジー教科書」は、視覚と聴覚から同時に情報が入ることから、理解が深まるとともに、日本語能力のレベルに応じて、「総ルビ」や「ルビ有り」の選択ができ、平仮名及びカタカナの習熟度に応じた指導に役立ちます。

・音声を読み上げる機能があり、一人で「聞く」などの音読練習が可能です。

【マルチメディアデイジー教科書】

2　携帯型通訳デバイス「POCKETALK」の活用

・携帯型通訳デバイスは、指導者が児童生徒の母語を使ってコミュニケーションを図ったり、学習場面において通訳デバイスを介して児童生徒の意見や考えを表出させたりすることに役立ちます。

・初期指導の段階では、翻訳された日本語を繰り返し聞いたり、表示された日本語を書き写すことで「書く」指導につなげたりすることも可能です。

【携帯型通訳デバイス】

北海道教育委員会義務教育課のWebページ「帰国・外国人児童生徒等教育」では、各種資料や外部サイトのリンクを掲載していますので参考としてください。

帰国・外国人
児童生徒等教育

監修：北海道教育大学札幌校准教授　阿部　二郎　氏
北海道教育大学函館校准教授　伊藤　美紀　氏